

# こんなん しています。

わだいとまわり

## 熊野の鬼の地名

和歌山大学名誉教授の南清彦先生は、戦後昭和の時代に和歌山大学に奉職された経済学者で、筆者も先生の研究論文に大変刺激を受けました。先生は鬼の研究者でもあり、「鬼が付く地名の場所には神秘的な自然条件や修験道の霊地が存在することが多い」と論文に書かれてるように、全国に鬼がつく地名は数多くあります。

また、筆者の研究相棒である現役の先生は環境学者でありながら妖怪研究者でもあります。彼は紀伊半島の地図上に三重県南部の沿岸地域に鬼に関連した地名が散在しています。



熊野灘に向かって建つ久木神社（尾鷲市九鬼町）

# 裔の末の鬼

様々な妖怪伝承のある場所をマッピングしています。彼のマップには、調査途中ですが今のところ紀伊半島で21地点の鬼に関わる場所が記されています。

両先生のユニークな研究はもとより地域の伝説などを調べると、鬼の登場には古来からの社会経済的、民俗的な根拠、背景があるのではと想像されます。

相棒先生のマップには三重県南部の沿岸地域に鬼に関連した地名が散在しています。

す。遊木は四鬼とも考えられ、四、五、六に鬼がつく名の集落があったとの言い伝えもあるようです。ここでは恐ろしい鬼の棲家という意味ではなく、地名の数字は修験者が開いた修験道場の順番だろうともいわれています。

奈良県の大峰山脈麓、下北山村に前鬼という集落があります。修験道を創始したとされる役小角（えんのおぶ）役行者の弟子だった前鬼（ぜんき）、後鬼（ごき）という鬼の夫婦がその教えに従い人間として里に下り住み着いたとされる地です。夫婦の5人の子ども（5鬼）は、五鬼継（ごきつぐ）、五鬼熊（ごきくま）、五鬼上（ごきじょう）、五鬼助（ごきじよ）、五鬼重（ごきじゆう）を名乗りそれぞれ宿坊を建て、代々山伏の世話をし多くの信者を集めてき

ました。明治以降、5家はしいに前鬼から離れますが、五鬼助家は今も前鬼で宿坊を運営されています。

これらに表される鬼は荒々しく恐ろしい鬼とは別で、修験道の霊力や法力、神性を具現化したものよつです。

節分には「鬼は外」と豆まきをするのが一般的ですが、九鬼氏が藩主であった現在の兵庫県三田市や福知山市の大原神社（元綾部藩領）では「鬼は内」と豆まきをする風習があります。藩主に鬼の字があるから、祖霊を鬼と祀っていた一族だからなどの説がありますが、禍福が表裏一体の鬼の存在を彷彿とさせる興味深い風習です。

時を経て14世紀の南北朝時代、南朝方の藤原氏が九鬼に落ち延び、九鬼氏と改姓し九鬼水軍を組織。熊野本宮の神官になったとの説もあります。水軍は信長、秀吉の時代には大いに活躍し紀伊半島の制海権を掌握するなど勢力を誇ります。しかし、江戸時代に内陸の摂津三田藩主家と丹波綾部

二木島灯台（熊野市）



藩主家に二分されます。

節分には「鬼は外」と豆まきをするのが一般的ですが、九鬼氏が藩主であった現在の兵庫県三田市や福知山市の大原神社（元綾部藩領）では「鬼は内」と豆まきをする風習があります。藩主に鬼の字があるから、祖霊を鬼と祀っていた一族だからなどの説がありますが、禍福が表裏一体の鬼の存在を彷彿とさせる興味深い風習です。

湯崎真梨子（ゆざき まりこ）

和歌山大学食農総合研究教育センター客員教授

元和歌山大学教授、博士(学術)。専門は農村社会学、地域再生学。自らの研究に加え、地域と協働するプロジェクト研究をマネジメントしている。



プロフィール